

やはり俺のCMなどは間
違っている

Ytai

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

俺ガイルキャラでCMやその他もろもろを描いていきます。

今後は、お笑いをメインに考えていきたいと思えます。

面白いネタやCMなどがあれば教えてくれると幸いです。

注意

投稿は不定期です。

誤字・脱字があると思いますがご了承ください。

ご指摘ください。

多少キャラ崩壊も含まれると思います。

小町大好きなものもご容赦ください。

感想もお持ちしております。

目次

CM	イトコメガネ	1
お笑い	なんでだろう	4
比企谷国語辞典		10
武勇伝		15
もしかしてだけど		21
拙者ギター侍じゃ		26

CM イイトコメガネ

葉山『僕も持つてるイイトコメガネ♪♪人のイイトコが見えるのだ!!』

葉山『イイトコメガネ』

戸部『ちつす!!なにこれ!!マジうけるwww』

葉山『戸部はクラス一番のムードメーカーで、イベントでも積極的に動いてくれる。いい奴だよ』

雪ノ下『騒ぐことしか能のないお調子者ね』

葉山『イイトコメガネ』

三浦『黙ってたらかわいいんだから、すこしは擬態しろし鼻血拭けし』

葉山『優美子は姫菜の暴走をよく止めるくれるし率直に意見を言ってくれる。いい奴だよ』

雪ノ下『威嚇とがなり立てることしか出来ない女王様』

葉山『…イイトコメガネ』

材木座『待ちわびたぞ!!いかにも我が剣豪將軍・材木座義輝だ』

比企谷『中二病じゃなければ、比較的におとな作家だ。いい奴なんじゃねーの?』

雪ノ下『最低限の日本語も書けず常識も無くしゃべり方のおかしい変質者』

葉山『……イトコメガネ!!』

由比ヶ浜『やつはろー!!』

葉山『結衣はだれとでも気軽に接することができ周りに気を配ることができる。いい奴だよ』

比企谷『まさしくビッチだな』

葉山『……イトコメガネ』

戸塚『ぼ、ぼくも……ヒツキーって呼んでいい?』

葉山『男女分け隔てなく接することができるし善悪の分別がしっかりしている。いい奴だよ』

比企谷『……あまりの可愛さにうっかり見とれてしまったぜ……』

葉山『……イトコメガネ』

小町『あ、いまの小町的にポイント高い♪』

雪ノ下『小町さんはあんなくでなしでも面倒をしつかりみてくれる。間違いなくいい人ね』

比企谷『ぐ、反論できない』

葉山『……イトコメガネ』

雪ノ下『比企谷くん、現実から目を背けないで。きちんと現実を知りなさい』

由比ヶ浜『ゆきのんはいろいろな相談に乗ってくれたり、真面目で真剣で本音を言い合える大好きな友達で………あ、もうたくさんありすぎて言い切れないよ』

比企谷『由比ヶ浜……お前どれだけ雪ノ下のこと好きなんだよ』

葉山『……イイトコメガネ』

比企谷『………』

由比ヶ浜『ヒツキーはとにかく………優しいかな?』

小町『お兄ちゃんは比較的だめだけど、小町のことを常に考えてくれる良いお兄ちゃんだよ?』

雪ノ下『目が腐っているうえに性格もひねくれている小悪党』

葉山『………みんなイイトコいっぱいだな。イイトコメガネはみんなの心の中にある

よ!』

比企谷『最後に俺をデイスるとかやはり氷の女……』

雪ノ下『ヒキガエル君、何か言ったかしら?』

比企谷『………』

お笑い 　　なんでだろう

小&八「どうも〜！Hand小町で〜す！」

雪&結「……………」

八幡「この曲を聴いてください」

小&八「……………なんでだろう？なんでだろう？」

小町「なんでだろう〜？」

八幡「なんでだなんでだろう〜？」

小町「お兄ちゃんのなんでだろう!!」

小町「結衣さんがお兄ちゃんのこと」

結衣（八幡）「ヒッキー!!」

小町「…………ヒッキーって呼ぶのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう〜？」

結衣「ヒツキーはヒツキーだから…」

小町「お兄ちゃんが喋るとき」

八幡「MAXコーヒー旨いな」

クラスメイト大勢「……………」

小町「……………みんなすごく黙るのなんでだろ？」

八幡「なんでだろ？」

結衣「たぶん、みんな『誰?』ってなってるんだと思う」

小町「お兄ちゃんと話をすると」

八幡「お前の口は自動小銃か」

小町「……………ときどきなんて言ってるかわからないのなんでだろ？」

八幡「なんでだろ？」

雪乃「小町さんに非はないわ」

小町「お兄ちゃんはいつも……」

八幡「……………」

小町「……目が腐っているのはなんでだろう?」

八幡「なんでだろう?」(人の粗探しもラークラク)

小町「文化祭が終わったとき」

八幡「小町の手料理の方が嬉しいんだけどな」

小町「……お兄ちゃんのおヒモの未来が見えたのなんでだろう?」

八幡「なんでだろう?」

結衣「シス…シスコン」

小町「お兄ちゃんと雪乃さん」

八幡「そうゆう考え方がまずおかしい」

雪乃(八幡)「確かに正論なのだけれど、あなたが言うと言説力がないわ」

小町「……毎日、痴話喧嘩してるのなんでだろう?」

八幡「なんでだろう?」

結衣「私は？」

小町「こんなに捻^レななのに……結衣さんと雪乃さんに好意を持たれてるのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう??？」

雪&結「……………／／／」

小町「雪乃さんはお兄ちゃんに……………」

小町「毒舌を吐くけれど……………」

小町「見解の一致がたびたびあるの」

小町「なんでだろう？」

小町「結衣さんはものすごく……………」

小町「料理上手くないんだけれど……………」

小町「お兄ちゃんが全部食べたのはなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」

小町「どうでもいいことだけれど」

八幡「ばばばん！」

小町「このアニメのタイトルがこんなに長いのに」

小町「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」

八幡「なんでだろう？」

小町「なんでだろう？」

小&八「……なんでだろう？なんでだろう？」

小町「なんでだろう？」

八幡「なんでだなんてだろう？」

小町「皆さんも一緒に!!」

小&八「なんでだろう？なんでだろう？」

小&八「なんでだ？なんでだ？なんでだ？」

小&八「なんでだろう？」

小&八「どうもありがとうございました」

雪乃「結局、何がしたいのかしら……比企谷君」

八幡 「小町がやりたいて言っただから手伝ってやっただけだ」
結衣 「やっぱりシスコン!!」

比企谷国語辞典

雪乃「また何か始まるようね」

結衣「まあまあ、ゆきのん。……とりあえず見てみようよ」

雪乃「そうね」

小町「比企谷国語辞典」

小町「学校」

八幡「教育のための建物、または幼児・児童・生徒・学生その他に対して教育が行われる場所のこと」

小町「青春」

八幡「常に自己と周囲を欺き自らを取り巻く環境を肯定的にとらえることができる人のみが感じることできるもの・時代」

雪乃「あなたとは到底無縁なものね」

小町「中二病」

八幡「中学二年生を頃に幻想的な思考や行動に囚われやすくなるが、言葉の通り精神的な疾患・病気とは関係なく数年を機に自己を見つめ直しそのような思考や行動はしなくなる。まあ、この機を逃すと材木座のようになるから気をつけろ!!」

小町「中二さん頑張ってる!!」

材木座「ひでぶっ!!」

小町「ボッチ」

八幡「俺」

雪乃「悲しい告白ね」

小町「リア充」

八幡「現在状況が充実している人を指す。主に友達が多く恋人がいるなどがあげられるが上っ面だけでの関係である場合が多い。その中でもいろいろな枷がある」

八幡「リア充代表のバカケ浜、何かあるか？」

結衣「……………んーつとえつとね、その前にバカつてなんだし!!」

小町「由比ヶ浜結衣」

八幡「少しお頭が悪く壊滅的な料理センスの持ち主で様々なダークマターを作り出している。八方美人以上の素質を持っているが最近では改善されつつある。口癖は語尾にしをつける傾向がある。後、ヒツキーって呼ぶな」

結衣「……………美人だって、うへへ／＼／」

小町「ポイント高い」

八幡「好感度を下げる語尾。主に比企谷小町が使う言葉。具体例を挙げるとすれば、『八幡はあんたの為に思って言ってるんだからね!! あつ 今の八幡的にポイント高い♪』などが挙げられる」

雪ノ下「気持ちが悪いわ」

小町「ヒキタニ君」

八幡「そんな奴はこの世にいない」

小町「撃滅のセカンドブリット」

八幡「元ネタはアニメ・マンガではあるが、実際に一教師が放つ必殺技。ひとつ前に衝撃のファーストブリット・一つ後には抹殺のラストブリットと三段階に分かれている。食らうとマジで痛い。ソースは俺」

結衣「ヒッキーは食らったことあるんだ」

小町「雪ノ下雪乃」

八幡「な…なんも言えねえ!!」

雪乃「比企谷君にしては賢明な選択ね」

小町「比企谷小町」

八幡「比企谷家ヒエラルキーでトップに君臨する人物で世界一可愛く愛おしい俺の妹、略して俺妹。親父が溺愛するあまりに俺の生命が危ない。……これはマジ。後、小町に近づくハエどもにはもれなくレーザーポイントを眼球にプレゼントしてやるから

覚悟してろ!!」

小町「少しシスコン気味だけど、お兄ちゃんがかんなにも小町のことを思ってくれたなんて……感動だよ!!……今日の夕飯何がいい……お兄ちゃん?」

八幡「小町の作る料理なら何でも良いよ」

小町「／／……ありがとうございます。それじゃあ行こっ♪♪お兄ちゃん♪」

ガラガラガラ……バタン!!

雪乃「やっぱりこういう結末になるのね」

結衣「ヒッキー……それはないよ」

武勇伝

ガラガラガラ

雪ノ下「また何を始める気かしら？」

由比ヶ浜「まあまあ、ゆきのん。……とりあえず見てみようよ」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、あなた前回と同じこと言っているわよ」

由比ヶ浜「ゆきのん、しっく！」

雪ノ下「……………」

小&八「デンデンデンデンデン」

小&八「デンデンデンデンデン」

小&八「デンデンデンデンデン」

小&八「デン！デン！デン！」

八幡「押してダメならあきらめろ by 比企谷八幡」

小町「お兄ちゃんかっこいい!!」

小&八「デン！」

小町「ヒキレンタルラジオです。」

八幡「お願いします。」

小町「お兄ちゃんいつもものやっただげて！」

八幡「おー聞きたいか俺の武勇伝」

小町「そのすごい武勇伝をゆったげて！」

八幡「俺の伝説ベストテン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「入学初日に事故に遭う」

小町「すごい！高校でもぼっちデビュー！！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「雪ノ下に毒舌食らう」

小町「すごい！もうお兄ちゃんのライフはゼロよ！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「由比ヶ浜の料理を食べる」

小町「すごい！返事がない。ただの屍のようだ」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

八幡「カツキーン！」

小町「すごいよ、お兄ちゃん。すごすぎるよ！」

小町「あつ！お兄ちゃんが遠ざかっていく」

小町「お兄ちゃん、止まって！」

八幡「止まらねえ！」

小町「止まって！」

八幡「止まらねえ！」

小町「止まって！」

八幡「止まらねえ！」

小町「止まって!!」

八幡「やってるんだよ！チバテレビでアニメの再放送が!!」

小町「かっこいいー！」

八幡「カツキーン！」

八幡 「かくれんぼでは俺最強！」

小町 「すごい！日常的にお兄ちゃん居たんだ！」

小&八 「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町 「レッツゴー！」

八幡 「家で猫を飼うことに」

小町 「すごい！ヒエラルキー猫より下に」

小&八 「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町 「レッツゴー！」

八幡 「雪ノ下に嘔みついてみる」

小町 「すごい！トラウマがみんなにさらされる」

小&八 「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

八幡 「カツキーン！」

小町 「すごいよ、お兄ちゃん。すごすぎるよ！」

小町 「よし、今からお兄ちゃんの部屋を掃除しよう」

八幡 「いいだろう！」

小町「まずはごみを捨てなきゃね！じゃあこの中に入れて」

八幡「携帯、財布、家の鍵にMAXコーヒ―」

小町「ちよつとちよつと！」

八幡「さあ、いまずぐ燃やせ！」

小町「お兄ちゃん、これ全部大切なものだよ！」

八幡「バ、カ、野郎!!」

小町「うわああ!!」

八幡「大切なものがなくても小町との思い出があれば俺は十分なんだよ」

小町「かっこいい／＼／」

八幡「カツキーン！」

八幡「肝試しでお化け役になる」

小町「すごい！ノーマイクでゾンビ顔に！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「一人野球を編み出した」

小町「すごい！ただただ友達いないだけ！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「交友関係を消去する」

小町「すごい！デリートじゃなくてリセットでした」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デデンデン！」

小&八「意味はないけれどもシヤクシヤしたから材木座をシカトする」

小&八「デンデンデンデン」

小&八「ある放課後の奉仕部部室で存在まで否定される」

小町「お兄ちゃんかっこいい!!」

八幡「カンカカカンカカツキーン！」

八幡「ひとつひとつの言葉噛みしめて専業主夫目指す」

小町「ペケポン！」

雪ノ下「武勇伝が何一つないのだけれど何がしたいのかしら比企谷君は？」

八幡「あれはただ小町に付き合ってるだけだ」

由比ヶ浜「やっぱりヒツキー、シスコン!!」

もしかしてだけど

がらがらがら

由比ヶ浜「やつはろー、ゆきのん」

雪ノ下「こんにちは、由比ヶ浜さん」

由比ヶ浜「ヒツキーもやつはろー!!」

比企谷「……………」

材木座「デンドデンドデンドデンド」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、もう始まるから静かにして頂戴。」

由比ヶ浜「なにが始まるの？ゆきのん？ヒツキーとギター片手の中二が何を……………」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、しくっ!!」

由比ヶ浜「ドヨオオー（1111ω）ーオオン…」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もう少しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もう少しかしてだけど」

比企谷「それってオイラを」

比&材「誘ってんじゃないの〜」

トントントントントン

比企谷「奉仕部室で雪ノ下が、初対面の俺の事を、ぬぼ〜つとした人と呼んでいたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もう少しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もう少しかしてだけど」

比企谷「このタイミングでゆきのんって呼んでほしかったんじゃないの〜」

トントントントントン

比企谷「放課後の家庭科室で、由比ヶ浜が出来の悪い、クツキーのようなもの作って
いたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もろしかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もろしかしてだけど」

比企谷「構ってほしくて、わざと失敗してるんじゃないの〜」

雪ノ下「由比ヶ浜さんが、そんなことを（A― ム―）フウ・・・」

由比ヶ浜「ご、誤解だよ!!ゆきのん!!」

トントントントントン

比企谷「教室で倒れてる時に、横を通った川崎沙希が、バカじゃないの?と言ってきたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もろしかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もろしかしてだけど」

比企谷「俺にパンツ見せるために遅刻したんじゃないの〜」

雪ノ下「後で、じっくり話を聞かせてもらおうわ」

由比ヶ浜「とりあえず、小町ちゃんに連絡するね」

トントントントン

比企谷「雪ノ下と買い物してる時、偶然出会った陽乃さんが初対面の俺にくつついてきたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もしかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もしかしてだけど」

比企谷「俺にその豊満なおっぱいを触ってほしかったんじゃないの？」

比企谷「Do you wanna hold me tight?」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もしかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もしかしてだけど」

比企谷「俺が欲しくてたまらないじゃないの〜」
材木座「そういうことだろ!!……デン」

雪ノ下「比企谷くん、この後わかかってるわよね」

由比ヶ浜「ヒツキー、今の話説明してもらおうからね、(、∩。ノ)」

比企谷「いや、早く帰らないと小町がご飯作って待ってるんFrだ」

雪ノ下「小町さんはもうすぐ着くそうです」

比企谷「(逃げるなら今だ!!)」

がらがらがら

小町「お兄ちゃん(。°∇。°)！お座り!!」

比企谷「はい←←(p1-i'∩、i1-!q)←←」

小町「今日はどこん説明してもらおうからね。お兄ちゃん(。°∇。°)」

拙者ギター侍じや

比企谷「小町く！小町はどこだ？」がらがら

由比ヶ浜「やつはろー」

比企谷「お、おう」

雪ノ下「遅かったわねシス谷君、あなた挨拶もできないほど症状（シスコン）が悪化してたなんて小町さんもかわいそうね」

比企谷「悪かったな、小町に呼ばれたんだよ。部室に来てな。それにお前も俺に挨拶してないからな」

雪ノ下「目下の人間が先に挨拶するのは常識だろ思うのだけれど、シス谷君は人間じゃないから、そんなこと言ってもわからなかったわね。ごめんさい」

比企谷「お前より地位が低いのは認めるが、人外扱いはやめてくれませんかね」

由比ヶ浜「そんなことより、小町ちゃん少し遅れてくるから待っててメールが来てたよ」

比企谷「さりげなく人外決定するのやめてくれる？俺泣いちゃうよ？」

雪ノ下「ゴミ谷君は置いていて、小町さんはなぜ私たちまで呼び出したのかしら？」

由比ヶ浜「うくんわかんない。ヒツキーと一緒にまたなんかやるんだと思ってたけどヒツキーも呼ばれてたみたいだし」

雪ノ下「そうね私もてつきりそう思っていたのだけれど、見当違いのようね。比企谷君？あなた小町さんから何か聞いてない？」

比企谷「いいや俺も何も聞いてない。あいつのことだ、また要らん事をやるに違いない」

小町「ちよつと!!まったく!!」がらがら

比企谷「小町！お前から呼び出しといて遅れてくるとは、心配しただろ。遅れるなら遅れるってちゃんと連絡しろよ」

小町「お兄ちゃん、心配してくれるのは嬉しいけどそこまでくると逆にきもいよ。雪乃さん、結衣さん、やつはろーです。遅れてすいません」

雪ノ下「こんにちは小町さん。気にしないでいいわ些細なことよ」

由比ヶ浜「やつはろー小町ちゃん。全然待ってないから大丈夫だよ」

小町「雪乃さんも結衣さんもいい人ですね、将来的に小町のお姉さんにしたい!!ねえお兄ちゃん？」

比企谷「それより小町？なんで部室に俺たちを集めたんだ。」

小町「はあ。お兄ちゃんに言っても仕方ないか。それではみなさんご清聴……じゃ

なかった。多いにお楽しみください」ジュンビジュンビく♪

比企谷「……お、おい！何するんだ！こま……」

雪ノ下「少し黙ってなさい、比企谷君」

由比ヶ浜「そうだよヒツキー、しっ！」

比企谷「(ドウユウコト?)」

小町「拙者、ギター侍じゃ〜」ぽちちとなCDオン

小町「お兄ちゃんさんの周囲を覗いてまいりました」

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「わたし、由比ヶ浜結衣。ヒツキーに今度こそ私の料理をおいしいって言わせてやるんだっていうじゃなくい」

デ〜ン

小町「でも結衣さんが先にやることは料理のさしすせそを覚えることですから!!」

小町「ざんねん!!」デ〜ン

小町「まず卵焼きから作りましょう。斬り」デ〜ン

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「わたし、雪ノ下雪乃。比企谷君、あなたは どうして そう捻くれた性格をし

ているのかしら私が矯正してあげるわっていうじゃなくい」

デーン

小町「その前に雪乃さん、お兄ちゃんにそんなこと言っても無駄ですから!!」

小町「さんねくん!!」デーン

小町「残念なのはお兄ちゃんなのでした、斬り」デーン

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「わたし、比企谷小町。比企谷八幡の妹です。お兄ちゃん毎日毎日捻デレさ
んです。ここは小町が何とかしないといけないっていうじゃなくい」

デーン

小町「ダメなお兄ちゃんを支える妹を演じてるだけですから!!」

小町「さんねくん!!」デーン

小町「本当に本当はお兄ちゃん大好きな小町なのです。斬り」デーン

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「おれは、比企谷八幡。スペックはそれなりにルックスもいい方だ。それな
のに奉仕部で雪ノ下には毒舌食らうし由比ヶ浜は「きもいきもい」ばっかだしそれなり
にストレスがたまってますっていうじゃなくい」

デーン

小町「それは雪乃さん、結衣さんなりの愛情表現ですから!!」

小町「さんねくん!!」デーン

小町「お兄ちゃんはまず雪乃さんや結衣さんの好意に答えてあげてください。切腹」
デーン

小町「ありがとうございます」

由比ヶ浜「小町ちゃん、面白かったよ。でねさしすせそって何かな?」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、それは私が後でおしえるから安心して頂戴。小町さんなかなか参考になったわ。ありがとう」

小町「いえいえこちらこそ。兄がいつもお世話になっておりますので」

比企谷「小町く! おーい小町さんやくい?」

由比ヶ浜「この後、どこか食べに行こうよ。いろいろ話したいし、ねえゆきのん」

雪ノ下「断つて無駄なのはわかっては、食事くらいなら付き合はうは……」

由比ヶ浜「それじゃあ、ゆきのん、小町ちゃん、レッツゴー!」

ガラガラガラバタン

比企谷「……………まあ、俺が誘われないのは分かってたけどね。はあく、帰るか」
ピロピロリン♪♪♪

メール

お兄ちゃん、先にサイゼに行ってるね。お兄ちゃんも来ること、いいね！絶対だよ！
byお兄ちゃん大好きな小町♪

比企谷「メールなんだからいちいち名前打たなくてもいいだろ……………たくつしようがない行くか」